

(1)

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年八月
春駒	さんさら		暦文 六弦	順一	六弦 楽		誠慈	ひろし きいち 楽				ひろし			
対岸を歩かせてゐる月明り	涼しきはフルーツポンチまるしかく シンプルな言葉の中に色とりどりの情景が浮かんでくる。	夏茜指を翳せば幼き日	角瓶の亀甲なぞる牽牛花 角瓶の空瓶に牽牛花、亀甲なぞるが上手い。	ろうそくの照らすケーキは氷菓なり アイスクリームケーキと言うものが有るのかもしれない。	バスクリン溶けて花咲く原爆忌 上五中七と季語の対比が恐ろしい。	呼びに来た母も見上げる夏の星	古都京都夕暮れ白き夕顔や	路地裏に残りし金魚売りの声 どこかなつかしい下町の夏を感じる。金魚売りの声は耳に残りますね。余韻を感じる秀句だと思いました。	上り坂萩をかすめる切り通し	肌寒や五体欲しがる中華そば	人生の秋の蛍を愉しめり	逆転の歓声を消す夕立かな	青い空案山子帽子に雀居り	アイス買うセブンすぐそば開店す	
新井のり子	春代	西窪弘子	網野月を	蛍のまま	山菜	ありぎりす	上江まつ子	つぶ金	しーしー	北郷興亜	森佳月	米山カロ ーリング	宇田靖之	あきみ	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年八月
文夫 喜夫 暦			のり子				章 道 山 菜 楽 浩		梗舟		のり子 凡士 鶴城	亜 朝子 光雲2 興		佳月	
青柿の坂転がりて夏の底 青柿の転がりから夏の底の静寂さへの転換が見事です。	八月と思えぬ雨や送り盆	かなかなや水に流るる水の影	夕風や隣家の風鈴かなでをり	秋風や友の計運ぶ夕まだき	秋澄むや青き稜線際立ちぬ	こころ旅正平涼風いま沁みて	秋暑し吐けば弱音になる本音 うんうん、よくわかりますよ。でも健康には吐いちやった方がいいんとちゃう。	煙立つ浅間の空に鰯雲	止められぬ終末時計よ八月よ	通夜の香やまして晩夏の雨の音	炎昼や影も暑さに前のめり 蔭までもが前のめりになっているという素地が素晴らしい。	少女とてうなじに色香風の盆 風の盆、一度見たことがあります、正に色香です。	酔芙蓉十三回忌も咲き誇る	俱会一処声なきこえの秋蛩 俱会一処と秋蛩の取り合わせが合ってます。	
霜里	雪待月田猫	くるみ	春駒	高松和永	しんい	瞳人	朝子	新 暦 文	石関六弦	峰岡誠慈	さんさら	河野凡士	高田はっち	光雲2	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年八月
				慈人佳月春代さん 誠瞳佳月春代さん 順一	和永		米山さん さら	土璃朝子光雲2		土璃光雲2		佳月	朝子代猫鶴城 春田鶴城	くるみ	
あと七日あと七日と泣く蟬しぐれ	定食屋大鍋振るひかばちや煮る	盆舟や心の中の薄明かり	熱帯夜会話の無きが心地良き	君去りて溶けゆくままのかき氷 青春の一幕ですね。溶けゆくままの措辞が詩的です。何が有ったのでしょう。二人の間に有ったに違いない内容が、この句を高めているような気がしました。	子ら集ふコロナ禍明けの地藏盆	朝雨（あささめ）に世界の祈り今朝の秋	初秋や指に零せし星の砂 久しぶりですか。	野仏に花ある処暑の帰郷かな 故郷の懐かしい風景と、初秋の寂しくも温かい空気感がよく表現されている。	都会よりきし兄よ涼し諏訪	草の庵土塀に懸かる百日紅	懐かしい電話の声や秋の暮	カンナが効いています。 カンナ燃ゆ心を砕く大地震	Tシャツの褪せしプリント夏の果 褪せしプリントの措辞が効いています。夏の果ての景が上手の詠まれた。	みな涼し千体地藏の風車	
渡部孝子	わがん	日高道を	平野 楽	きりり	小林陸人	持永喜夫	龍野ひろし	渋谷きいち	和田イチ子	山川 充	立野音思	青木鶴城	岡崎梗舟	小林土璃	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年八月
							瞳人	風子							
立つ秋の炒り豆跳ぬるフライパン	もう五年すれ違ひなり星祭	湖（うみ）渡るパラグライダー青田波	飛来して車体に映る赤とんぼ	よく見れば人飛んでいる雲の峰	出雲へと神々送る秋祭り	いたずらの好きな妻の手鳳仙花	飛び入りが増えて四角に踊の輪	麦とろや漁の合間の馬力飯 馬力飯がいい。	運動会元担任と卒業生	夕立の慌てる人を喫茶店	黄葉の絨毯踏みし君と吾子	秋の蝉幹から逃亡始めたり	書架に積む「平凡パンチ」濁り酒	閻王の赤は苦しみ彼岸花	
山菜	網野月を	蛍のまま	つぶ金	ありぎりす	上江まつ子	森佳月	しーしー	北郷興亜	あきみ	米山カロ ーリング	宇田靖之	石川順一	染谷風子	佐藤浩章	

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年八月
喜夫		春代 梗舟		暦文 春駒 道を わがん 順一	米山						和永	浩章		興亜 くるみ 道を 六弦	
雲となる茶毘の煙や花カンナ	糸瓜忌や隆盛のぼーる如何かと	くずれ家や汗の老女の立ち尽くす	一葉の聖地なる坂秋澄めり	校長のゐない八月逆上がり	夫の灯にわが灯を寄せて秋灯	桐一葉落ちて竹馬の友逝けり	夕涼みベンチの上には雪国	この顔も明日には消える晩夏通夜	こころより祈る光の流灯会	悪名を唸れば河内踊りだす	黙禱に幼き子あり終戦忌	頂きのケルンの遙か旱星	足元の白粉花の濃く淡く	半島の先尖りたる大暑かな	尖りたるが良いですね。半島の先尖りたるの措辞と大暑の季語が響き合っている。
花カンナは悲しみの中にも前を向く意志のような力強さをこれから生きてゆく人に与えているかのようです。			五に被災地の悲惨な景が浮かびます。								いつまでも平和が。				
くるみ	瞳人	高松和永	しんい	石関六弦	朝子	新 暦文	さんさら	峰岡誠慈	光雲 2	河野凡士	高田はつち	西窪弘子	新井のり子	春代	

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年八月
			慈章 垂土 凡子 風子 山菜 誠浩				風子 田猫			土璃 凡士 春駒 さいち 梗舟	くるみ ぎいち 鶴城	ひろし	瞳人 米山 和永 喜夫 わがん		
鈴虫の鳴き焦がれたる閨のうち	西瓜食ふ妻の小言は噛み砕き	鍵敲く仙人掌の花フォルテシモ	盆踊一揆の記憶唄ひ継ぐ 本質をついている。郷土の盆唄や踊りには謂れがありますね。盆踊りは精霊を迎え慰めるもの、処刑された一揆指導者への鎮魂句。郡上踊りは郡上一揆の記憶を今も語り継いでいる。合掌！	蝉時雨いなく牧場木曾の風	秋の夜を震はすチエ口の深き音	打止めは連発させて村花火	血の色を平和の色に花カンナ 三色旗の赤は友愛を意味しています。	北濠の繋ぐ打水（だすい）やあきあかね	露天湯に星きらめける夜寒かな	夏痩せの雀に影貸す地蔵かな 絵本のような世界がいいです。細かな写生が良いと思います。	ラムネ玉うまく躍らす喉仏 ラムネを美味しそうに飲む喉仏に注目。お見事です！細かな観察が生きている。ラムネ玉を躍らせる発想が素晴らしい。	列なして衣擦れ涼し修道女	パナマ帽受け取る父の退院日 散歩、またね。良かったですね。言葉より、帽子を一つ受け取る仕草にそのすべての喜びを託している点が鮮やかです。	茄子の背にスコ座りして送り盆	
日高道を	平野 楽	持永喜夫	小林陸人	和田イチ子	龍野ひろし	渋谷きいち	青木鶴城	山川 充	立野音思	霜里	岡崎梗舟	小林土璃	春駒	雪待月田猫	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年八月
										わがん 山菜	のり子			田猫	
									とんぼうの水路が産卵基地となる	大胆に盗む接吻村祭 もともと祭とは、男女の鬱憤のはけ口であったそうだ。いいぞいいぞ！	雷鳴に肩をすばませ餃子焼く 雷の多いこの夏の景。	川超えて参道飛ぶや彼岸花	まだ逝くな風に揉まるる法師蝉	石段の天に届くや夏の寺	
									石川順一	染谷風子	わがん	佐藤浩章	渡部孝子	きりり	